

2022 年 2 月吉日
日本バイオセーフティ学会
理事長 北林 厚生

殿

実験室バイオセーフティ専門家講習会開催：ご案内

拝啓

梅花の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

扱て、今般日本バイオセーフティ学会では、実験室バイオセーフティ専門家制度を設け、昨年（2021 年 10 月）には、第 1 回認定講習会を実施しました。

2022 年度は、6 月 6 日～6 月 10 日の 5 日間第 2 回講習会を開催致します。

本講習会は、バイオセーフティ並びにバイオセキュリティに係る技術、技能の習得を目的とし、本分野での専門家としての認定制度として設けました。

就きましては多忙な時期、出費多様とは存じあげますが、ご理解頂き安全で信頼の提供が出来る専門家の養成に配慮頂き、受講頂きたく宜しくお願い致します。

敬具

1.制度の目的

実験室バイオセーフティ並びにバイオセキュリティは、病原微生物並びに遺伝子組換え体等を取扱う施設においては、安全性を基軸とした作業・運用などの品質保証によりより高い信頼性の確保が求められています。

特に、21 世紀に入り、新興・再興感染症は脅威を拡大し、保健衛生のみならず経済・社会生活にも大きな影響を生じると共に、意図的な悪用への対策が求められるなど、生物学的安全保障への対応が必要な社会環境を呈しています。

この様な環境に対応するため、「実験室バイオセーフティ専門家制度」を設け、実験室バイオセーフティ並びにバイオセキュリティの基盤となる、バイオリスクマネジメントをはじめ、施設・設備、各種安全装置に就き理解頂く事に依り、総合的な技術力・技能力の取得を行います。

これらの習得により、微生物学の利用や公衆衛生における安全の保障並びに臨床研究を始め疫学的研究や医療施設での検査環境などでの安全性の確立に寄与できる専門家としての人材の育成を目的と致します。

2.制度の運用範囲

わが国で既に多くの当該施設には感染症法に基づく運用が行われていると共に、感染症法に定められた「病原体等取扱い主任者の要件」も定められていることから、これらの規定には何ら抵触するものではない事が前提としての運用とさせていただきます。

実験室バイオセーフティ専門家制度は、病原微生物並びに遺伝子組換え体等を取扱う際のバイオセーフティ並びにバイオセキュリティを必要とする実験室の管理者並びに実験従事者、建築・設備設計者、施工者、保守メンテナンス関係者などを主たる対象者と致します。

但し、医療施設内の病棟に係る管理者等の関係者は対象としていません。

講座の主要構成は、バイオリスクマネジメントを始め、建築・設備設計概要、制御システム、病原体等安全管理、実験室バイオセキュリティなどの他、実習を設け BSL2 室に設置した生物学用安全キャビネットの機能の習得並びに実際の BSL3 設計図書による標準操作手順書の検証作業を行い、専門家としての知見取得を目的に実施致します。

並びに公益財団法人 建築技術教育普及センターにて実施されている、建築 CPD (Continuing Professional Development) 運営会議プログラム認定された講座を設けています。

3.講習での基本的事項

わが国で既に施行並びに運用されている、各種ガイドラインを基本とした講習内容と致します。

主たる法律・ガイドラインを下記に示します。

3-1.法律等

- ①感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
- ②遺伝子組換え生物等の使用等の規則による生物の多様性の確保に関する法律
- ③動物の愛護及び管理に関する法律
- ④実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準
- ⑤建築基準法等
- ⑥国土交通省 建築・設備に係る規定等

3-2.ガイドライン等

- ①実験室バイオセーフティガイドライン：第2版 日本バイオセーフティ学会編
- ②実験室バイオセーフティ指針 世界保健機関 (WHO：第3版)
2020年12月：第4版発行に伴い、講座での概要紹介を行う予定です。
- ③病院設備設計ガイドライン：HEAS-02-2013 一般社団法人日本医療福祉設備協会規格
- ④医療施設の環境管理による院内感染予防指針
CDC (院内感染予防諮問委員会：HICPAC 勧告) NPO 法人バイオメディカルサイエンス研究会
- ⑤バイオリスクマネジメント：実験室バイオセキュリティガイダンス

世界保健機構（WHO）2006.6 国立感染症研究所：翻訳・監修
⑥日本バイオセーフティ学会 第4回シンポジウム 講演抄録
ISO15189の現状とCWA15793のISO35001に就いて 2029年12月6日

4.建築 CPD（継続能力/職能開発）プログラム認定に就いて

本講習会の受講者には、公益財団法人建築技術教育センター：建築 CPD 運営会議事務局宛て、第2回講習会も申請致します。

申請のプログラムを下記に示します。

- * 講座番号（3）バイオセーフティ施設の建築学概論
- * 講座番号（4）バイオセーフティ施設の建築設備概論
- * 講座番号（5）遺伝子組換え体取扱い施設の建築・設備
- * 講座番号（6）実験動物（感染動物）施設の建築・設備
- * 第1回総合討論（質疑）

受講証明書等に就き、本講習会終了後お渡し致します。

講習会のすべての講義に出席されることが必要です。

認定試験での可否にかかわらず、受講証明はご要望頂ければ、発行致します。

5.受講者並びに受講資格

申請頂きました、資料に基づき、本会の担当理事並びに理事長にて承認された方を受講者と致します。

①受講者は、安全保障の観点から日本国籍並びに法的資格を充足される方。

②受講申請書に必要記載の上、提出願います。

受講申請時には次項の資料を提出願います ・住民票（発行後3ヶ月以内）

③海外からの受講希望者又は、海外国籍者で、日本国に所在（法令：登記）機関に所属の方は、下記の資料の写しの提出をお願いします

i) 所属機関の在職証明書若しくは、在籍証明書の何れかの提出をお願いします。

なを、本会事務局より、お問合せする場合も有ります、ご承知願います。

④受講者は次項の何れかの実績を有する方。

下記の事項は、受講申請書に記載願います。期間は、合計期間とします。

- i) 実験室バイオセーフティでの実験研究を3ヶ年以上有する事。
- ii) 実験室バイオセーフティでの運営管理業務を3ヶ年以上有する事。
- iii) 実験室バイオセーフティ施設の設計（建築・設備）並びに施工管理を3ヶ年以上有する事。下記に実務例を示す。

* 施設の設計、施工管理（建築・空調、換気、給排水衛生設備、電気設備等）に従事。

* バイオセーフティ施設の除染作業管理者、除染作業従事者。

* 生物学用安全キャビネットの整備、検査（現場含む）従事者。

6.実験室バイオセーフティ専門家認定制度に就いて

本専門家認定制度は、認定試験を合格された方が、本学会として認定に資する事項を充足されて居られる事を、講師が認めると共に、本学会理事長、担当理事により承認された方を「実験室バイオセーフティ専門家」としての認定者と致します。

認定に資する主な、事項に就いて

- ①バイオセーフティ並びにバイオセキュリティに就いて十分な理解と、技術・技能を所有している。
- ②安全・安心を承知し、危機管理に十分な対応と理解が出来た事。
- ③講義での受講態度、実習時での理解力など、実験室バイオセーフティ専門家として知見の習得に意欲を持っていると判断された方。

7.認定試験

- ①認定試験は、講習会最終日に実施します。
- ②認定試験では、試験官の指示に従って下さい。
- ③試験時には、本講習会テキスト並びに試験官が示す資料の参照は可とします。
- ④採点方法

試験問題は、必須問題と一般問題があります。必須問題での正回答 80%以上が合格と成ります。一般問題は、70%以上の正回答を合格とします。

最終合格は、必須・一般それぞれの合格が必要です。

- ⑤不合格の場合、再試験は致しません。なを、採点等のお問合せには、回答致しません。

8.講習会運営・開催方法

講義は、所定の会場にて実施致します、講義室在席にて出席とさせていただきます。

但し、講義は会場からでは無く、他の場所から電子的方法（Zoom）に依る、リモート方式並びに録画等による講義の場合も有ります。

9.受講者数

- ①30 名以下での開講と致します。
- ②本学会会員並びに賛助会員は、優先受け付させていただきます。
- ③1 社（機関）からの受講者は、3 名以下と致します。

10.受講受付期間

- ①2022 年 3 月 14 日（月曜）受付開始
- ②定員（30 名）と成り次第、締切り致します。

11.第 2 回講習会期間

2022 年 6 月 6 日（月曜）～2022 年 6 月 10 日（金曜） 5 日間
なを、カリキュラムは、別紙を参照願います。

12.受講費用・認定費用

所定の金融機関に振込みお願い致します。

受講費用 ￥80,000 円（送金手数料はご負担願います）

認定費用 ￥30,000 円（送金手数料はご負担願います）

* 受講費用入金確認にて受講として受付けと成ります。

* 受講費、認定費は、返却致しかねます。

* 領収書の必要な方は、ご連絡願います。

なを、実験室バイオセーフティ専門家認定書発行費用 ￥30,000 円は、認定申請時にお支払い願います。

13.受講手続き

①受講参加書の提出（住民票の添付：海外国籍者の方は前項の関連証明書の添付）

②JBSA 担当理事・理事長による、受講審査を行います。

③受講票の送付（受講参加書：記載住所に送付）

④受講費用のご請求・入金確認後、テキスト並びに追加資料を送付します。

講習会には、必ず持参して下さい。

* テキストお忘れの方には「￥40,000」でお渡し致します。

* 追加資料お忘れの方には、「￥3,000 円/冊」でお渡し致します。

14.受講書の発行、並びに発送

①受講申請書を受領後、担当理事・理事長にて審議の結果、承認された方には、受講書を送付致します。

②受講料の入金確認後、受講証明書並びに講義テキスト・追加資料を送付致します。

なを、納入後受講料の返却は、致しかねます。

15.受講時での持参品

①受講受付票

②健康保険証

③テキスト・追加資料（未持参の場合、￥40,000 円・追加資料 ￥3,000/冊）

④建築 CPD 認定証明での必要資料（該当者のみ）

⑤新型コロナワクチン接種証明書

注記：上記ワクチン非接種の方は、受講期日、3 日前以内に PCR 検査若しくは抗原検査において、陰性が確認される証明書等の提出
但し、上記の運用は、当該時期での政府等の発令状況により変動する場合があります。

16. 講習会の中止、延期に就いて

- ①自然災害等による被害を受けられ、受講が困難な場合で既に受講費をお支払いされた場合。
 - i) 受講費用（¥80,000 円）の内、テキスト・追加資料代金（¥40,000 円・¥3,000 円/冊）を除いた残額は、受講者指定の銀行に振込み致します。
なを、テキストが災害のため、使用不可と成った場合、受講者のご連絡により、無料送付致します。
- ②本会の責任により、講習会が中止、延期の場合、受講費は全額返金させて頂きます。
テキストを既に送付済みの場合、テキスト・追加資料代金（¥40,000 円・¥3,000/冊）の除いた金額を返金させて頂きます。
- ③日本国政府並びに該当する地区において、非常事態宣言等並びに準じる行動規制が発令された場合、発令を遵守し、中止若しくは延期と致します。
なを、受講者、講師、関連事務担当において、影響が少ないと判断（本委員会）の場合、講習会を実施する事も有ります。
- ④中止、延期の場合の、次回（受講）での対応
 - *カリキュラム、テキスト等の変更が無い場合。
 - i) 当初の期間から1ヶ年と致します。
 - ii) テキスト代金を差引した金額をお支払い頂きます。
 - *カリキュラム、テキストの一部変更の場合。
 - i) 当初の期間から1ヶ年と致します。
 - ii) 変更された、テキストのみ無料でお渡し致します。

17. 受講者の講習期間中の事故・疾病等に依る欠席の場合

- ①受講費支払い後の欠席の場合、受講費の返却は致しかねます。
- ②講義期間中、1日間の欠席の場合
 - i) 当該日の講義テキストに就き、感想文を講習会期間内に提出。
感想文は、講義別にA-4:1頁程度とする。
- ③講義に於いて、実習を欠席の場合
 - i) 下記の実習講座の何れか、若しくは全ての講座を、欠席された場合、認定試験は受験出来ませんが、認定申請は不可と成ります。
*実習講座名 講座番号 (10) BSL システム (11) BSC の構造並びに風速測定・検査概要 (12) 個人用防護具 (PPE) に就いて。
(20) 標準操作手順 (SOP)・標準微生物取扱い手順 (GMT)
 - ii) 当該での認定試験合格の場合、本受講の2ヶ年以内に実習を受講し、実習に係る試験を受け、合格の場合、認定者申請は出来ます。
 - iii) 本件での実習の受講費用は、別途お支払い願います。
 - iv) 受講申込期間は、当該期間と致します

④認定試験時での欠席

i) 不合格とする。

*従って、認定申請には、該当しない。

ii) 受講者の特段（業務上、家庭等での）の理由が生じた場合（当日含む）

認定試験は、後日（3ヶ月以内）学会指定の会場にて受験する事が出来る。

費用（受験費用）は発生しない。

18.講習会開催場所

施設名称 一般社団法人 予防衛生協会内 研修室・BSL2 室

住 所 〒305-0003 つくば市桜1丁目16-2

TEL 029-828-6888 FAX 029-828-6891

19.事務局：受講申込先：担当者

*一般社団法人 予防衛生協会 内 日本バイオセーフティ学会 学術企画事務局

住所：上記と同じ

担当者 小野孝浩 E-Mail tono@primate.or.jp

*実験室バイオセーフティ専門家委員会

庶務担当：篠原克明 E-Mail katsushino123.123@docomo.ne.jp

*学会 事務局長：杉山和良 E-Mail kazusugi@tba.t-com.ne.jp

*受講料振込に就いて

① ゆうちょ銀行からゆうちょ銀行口座へ払込の場合

口座番号 : 00130—9—151869

加入者名 : 日本バイオセーフティ学会

② 普通銀行からゆうちょ銀行口座へ振込の場合

銀行名 : ゆうちょ銀行

金融機関コード : 9900

店番号 : 019

預金種目 : 当座

支店名 : 〇一九（ゼロイチキュウ）

口座番号 : 0151869

加入者名 : 日本バイオセーフティ学会

（カナ） （ニホンバイオセーフティガッカイ）

③ ゆうちょ銀行または普通銀行からみずほ銀行口座へ振込の場合

銀行名 : みずほ銀行

支店名 : 高田馬場支店

店番号 : 064

預金種目 : 普通

口座番号 : 2337610

名義 : 日本バイオセーフティ学会

(カナ) (ニホンバイオセーフティガッカイ)

20.附則

①宿泊は、受講者にてご手配願います。

②昼食は、会場にても準備させていただきますが、現金での清算と成ります。

* 当日受付致します。

③自家用車での来場

・ 駐車場は、敷地内の空地での駐車と成ります。

・ 事故、盗難などの場合の保証は致しかねます。

同封資料

* ご案内書 (本文)

* カリキュラム (講師並びに講義日時は、変更される場合も有ります)

* 講座概要

* 受講申請書

* お振込用紙

以上

第2回 実験室バイオセーフティ専門家講習会開催案内

日本バイオセーフティ学会では、適正な実験室バイオセーフティ並びにバイオリスクマネジメントの実施・運営と生物学的安全保障などに対応するため、「実験室バイオセーフティ専門家制度」を設け、専門家認定を行うため、「実験室バイオセーフティ専門家講習会」を、下記の日程にて開催いたします。

講習会は、実験室バイオセーフティ並びにバイオセキュリティを基礎としバイオリスクマネジメント、各種安全装置、実験施設設計・設備に係る技術・技能の習得を目的とした講座となっています。

カリキュラムには、下記に示す講座を設け、より実際の管理・運営に供する内容にて構成いたしました。

2020年に発表された、WHO Laboratory Biosafety Manual 2020につき、本講習会では特に講座は設けませんが、関与する概要を紹介する予定です。

講義の基本は、弊会にて発行の「実験室バイオセーフティガイドライン：第2版」といたします。講座毎に講師執筆によるテキストを用いた講義を行います。

実習は4講座設け、BSL2室に設置の生物学用安全キャビネット（BSC）を用いて機能・構造につき理解頂きます。PPEの実習並びに実験室バイオセーフティの整備・運用に必要な標準操作手順書（SOP）の一部をグループ討議にて作成するなどの実習を行います。各講座とも、実験室バイオセーフティ専門家として習得に必要な内容となっています。

建築・設備部門の方々には、建築 CPD 認定プログラム認定講座（5講座）を設け本分野での知見向上を行います。

1. 講習会：開催期日

第2回 2022年6月6日(月)～6月10日(金)：

5日間

*受付期日 開始：2022年3月14日(月)

なお、第3回は2022年10月17日(月)～10月21日(金)：5日間を予定しています。

*受付期日 開始：2022年7月11日(月)

2. 講習会開催場所

一般社団法人 予防衛生協会 研修室（つくば市）

3. 受講案内・申込先

一般社団法人 予防衛生協会内 学術企画事務局

住所 〒305-0037 つくば市桜1-16-2

TEL：029-828-6888 FAX：029-828-6891

担当者 小野孝治 E-Mail tono@primate.or.jp

4. 受講料

①実験室バイオセーフティ専門家講習会 受講料 ￥80,000円

②実験室バイオセーフティ専門家認定申請費 ￥30,000円

専門家認定申請は、専門家講習会での認定試験合格並びに弊会、理事長・学術担当理事、事務局長全員の承認後、認定証を発行致します。

なお、認定期間は、5ヶ年です。継続認定の係る事項は後日ご連絡致します。

5. バイオセーフティ専門家制度委員会

○北林厚生、倉田毅、杉山和良、篠原克明、坂田保司、望月淳一、本田俊哉、榎田順一、小暮一俊、井上秀、藤本浩二（敬称略・順不同、○委員長）

6. 実験室バイオセーフティ専門家認定承認担当

*理事長

*学術担当理事：森川茂、杉山和良、伊木繁雄

第2回 実験室バイオセーフティ専門家講習会 カリキュラム

期日	開始	終了	講義時間	講座No	講座名	講師	講義概要
第1日 6月6日	13:30	14:00	30		開催：挨拶・総合ガイダンス		
	14:00	15:30	90	(1)	バイオセーフティマネジメント	篠原克明 * 信州大学	・実験室バイオセーフティガイドラインの概念 ・実験室バイオセーフティの定義、リスクマネジメントの考え方 ・微生物学的リスクレベル評価について
	15:40	17:10	90	(2)	微生物学概論	森川 茂 * 岡山理科大学	・ウイルス、細菌などの微生物の性質、特性などの概要 ・感染とは、伝播様式並びに免疫等に関する概要を紹介
	17:20	19:30	130		* 自己紹介 * 懇親会（予定）		・業務紹介、バイオセーフティとの関与、講習会参加目的等
期日	開始	終了	講義時間	講座No	講座名	講師	講義概要
第2日 6月7日	9:00	10:30	90	(3)	建築学概論 (建築CPD対象講座)	坂田保司 * 山下PMC	・バイオセーフティ施設（実験室）の建設プロセス、各種災害対策 ・バイオセーフティ施設設計での考慮事項について
	10:50	12:20	90	(4)	建築設備概論 (建築CPD対象講座)	三浦裕一 * ダイダン	・感染症法に定められている、施設（実験室）設備に係る事項 ・BSL施設設備 ・JBSA：実験室バイオセーフティガイドラインの実践
	13:00	14:30	90	(5)	遺伝子組換え体取扱い施設（建築・設備） (建築CPD対象講座)	前川秀彰 * BMSA	・遺伝子組換え体（カルタヘナ法）：概要と施設設備について ・実験操作手順（SOP）と考慮事項
	14:50	16:20	90	(6)	実験動物（感染動物）施設・設備 (建築CPD対象講座)	北林厚生 * 予防衛生協会	・感染動物の飼育管理とABSLシステム概要 ・感染動物飼育施設設計概要とSOP ・実験動物のQOL、Well-being、Care、と施設設備の要素と運用
	16:30	17:30	60		総合討論（第1回） (建築CPD対象講座)	講師	・1日目、2日目を通じての質疑応答 (事前に質疑を記載頂き、討論・回答を行う)
期日	開始	終了	講義時間	講座No	講座名	講師	講義概要
第3日 6月8日	9:00	10:00	60	(7)	1次バリアー：封じ込め装置、滅菌装置	小暮一俊 * 日立産機システム	・BSCの機能（封じ込め）・構造について ・BSC装置の室外排気での考慮事項・高圧蒸気滅菌装置の機能紹介
	10:00	11:00	60	(8)	BSLシステムに係る制御システム	石原正也 * アズビル	・バイオセーフティのための室圧制御システム ・温度、湿度、バイオセーフティ、セキュリティでの制御システム
	11:20	12:20	60	(9)	病原体等安全管理	藤本浩二 * 予防衛生協会	・病原体取扱いでの安全管理に係る事項紹介 ・病原体安全管理につき、規定書に記載すべき内容について
	13:10	17:00	230		実習・ガイダンス（注意事項紹介）* 実習・3班（約70分/講座）にて実施 総合担当：藤本浩二		
				(10)	A班：BSLシステム：系統図：平面図での風量	小暮一俊（日立産機システム）	・空調、換気設備図面による、給排気風量算出など
				(11)	B班：BSC実機の構造並びに風速測定：検査概要	高澤優志（日立産機システム）	・BSC実機による構造・機能の確認・風速低速時での状態
				(12)	C班：個人用防護具（PPE）について	杉浦彰彦（イカリ消毒）	・PPE（個別）着衣、脱衣・動作確認（体験・コンタミネーション防止の習得）
	17:00	17:30	30		総合討論 第2回	講師	1日・2日・3日を通じた質疑応答
期日	開始	終了	講義時間	講座No	講座名	講師	講義概要
第4日 6月9日	9:00	10:00	60	(13)	医療施設におけるバイオセーフティ 院内感染対策	國島広之 * 聖マリアンナ医科大学	・感染制御とは、院内感染に就いて解説する ・感染制御とスタンダードプレコレーション（標準予防策）について ・感染経路別対策など
	10:10	11:10	60	(14)	医療施設におけるバイオセーフティ 病院施設概要・設備概要	大山有紀子 * 山下設計	・病院施設、設備の概要と感染防止対策について
	11:10	12:00	50	(15)	医療施設におけるバイオセーフティ 感染症病室の概要	北林厚生 * 予防衛生協会	・CDC：院内感染諮問委員会（HICPAC）勧告記載の「医療施設の環境 管理による院内感染予防指針」を主体に感染病室設計について紹介する
	12:30	14:10	40	(16)	バイオセーフティ施設の除染	杉浦彰彦 * イカリ消毒	・各室（エリア）における事例を含めて、消毒・殺菌、滅菌、清掃とは について紹介する
			30	(17)	実験室での除染事例		・各種除染（滅菌・殺菌）薬剤の特性、運用方法について
			30	(18)	医療施設での除染事例		・除染時でのPPE、操作（作業）手順での注意事項
	14:30	15:30	60	(19)	病原体等の輸送	伊木繁雄 * 国立感染症研究所	・感染性物質の輸送規則について、WHO指針並びに感染性物質の輸送 規則に関するガイダンスの紹介並びに漏洩対策など
	15:40	17:40	120	(20)	実習：班別実施・発表 標準操作手順（SOP）・標準微生物取扱い手順 (GMT)	北林厚生 * 予防衛生協会 * 班別指導員 班/指導者1名	・配布の「標準操作手順書（SOP）」に未記載項目を記載する 記載内容は、班別に発表し記載根拠を示す
期日	開始	終了	講義時間	講座No	講座名	講師	講義概要
第5日 6月10日	9:00	9:30	30	(21)	感染性廃棄物の処理	杉山和良 * 元国立感染症研究所	・関連法令の紹介 ・廃棄物処理法などによる、感染性廃棄物処理マニュアルの概要紹介
	9:30	10:30	60	(22)	実験室バイオセキュリティ WHO発行資料を基本	杉山和良 * 元国立感染症研究所	・WHO「バイオリスクマネジメント：実験施設バイオセキュリティ ガイダンス」の概要紹介
	10:40	12:00	80	23	仮題「新興・再興感染症の現状」	検討中	・近年の感染症の動向、知見として承知すべき事項などを講演
	12:40	15:00	140		認定試験		
	15:10	15:40	30		質疑：総合討論 * 質疑書：当初配布 後日回答も有り	講師	
	15:40	16:00	20		閉会式		

注記 ①講義は、対面を基本として実施致しますが、講師の都合により、録画等にての講義も行います。

②受講料は、納付後の返却は致しません。詳細は「本認定講習の案内」を参照願います。

③第2回実験室バイオセーフティ専門家講習会の案内書は、2022年2月末から配布（予定）致します。

④カリキュラムは、講師の都合により変更される場合も有ります。事前連絡が出来ない場合にはご了承願います。

⑤講義時間は、多少前後する場合も有ります。なお、建築CPD受講申請は、全ての講座受講が必要と成ります。

第1回実験室バイオセーフティ専門家講習会写真

2021年10月25~29日に開催された第1回実験室バイオセーフティ専門家講習会の講義・実習風景の写真を掲載いたします。講習会参加をご検討頂く際の参考に願います。



No.1 講義



No.2 PPE 実習



No.3 BSC 実習



No.4 SOP 実習グループ討論



No.5 総合討論